

三浦半島から採集された ニセモンキマメゲンゴロウ （甲虫目：ゲンゴロウ科）

藤原大貴*・内船俊樹**・大澤啓志***

Platambus convexus Okada (Coleoptera:
Dytiscidae) collected from the Miura
Peninsula, Japan

FUJIWARA Hiroki*, UCHIFUNE Toshiki **
and OSAWA Satoshi ***

キーワード：ニセモンキマメゲンゴロウ, ゲンゴロウ科,
三浦半島, 分布

Key words: *Platambus convexus*, Dytiscidae,
Miura Peninsula, distribution

ニセモンキマメゲンゴロウ *Platambus convexus* Okada は 2011 年に新種記載された日本固有種で、タイプ産地である北海道南部に加え、本州では青森県、福島県で記録されたのみである (Okada, 2011; 北野, 2012; 吉井, 2012)。筆者の一人、藤原は 2018 年に三浦半島北部の河川源流部にて本種個体を採集したので、その形態的特徴と生息環境ならびに採集状況について述べる。

採集標本

3exs., 神奈川県鎌倉市, 20180627, 藤原大貴採集.

4exs., 神奈川県鎌倉市, 20181031, 藤原大貴採集.

上記の採集した個体はすべて横須賀市自然・人文博物館に収蔵した (YCM-I 32748 ~ 32754)。

本種の同定：採集個体は体長約 7 mm (第 1 図), 前胸背の前角に黄紋があること (第 1 図および第 4 図, 矢印), 前胸腹板突起が竜骨状を呈すること (第 2 図,

矢じり) や, 雄交尾器中央片の先端部が反り返ること (第 3 図, 矢じり), などの特徴を有し, Okada (2011) および北野 (2012) に基づきニセモンキマメゲンゴロウと同定した。

生息環境：採集地は, 神奈川県鎌倉市域にある河川源流部の約 1 km の区間である (第 5 図)。同所では, 本種に近縁のモンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* Sharp も多数確認された。

採集状況：筆者の一人、藤原は 2018 年に三浦半島各地の河川に生息するモンキマメゲンゴロウについて、各地の分布状況や環境選好性について調査を行った。当地においても 2018 年 6 月 27 日に、たも網を用いた掬い取り調査を行っていたところ、多数のモンキマメゲンゴロウに混じって、腹面の赤褐色が顕著な個体が混ざっていることに気付いた。確認のため、うち 3 個体を持ち帰り形態を観察したところ、前述のとおりニセモンキマメゲンゴロウと同定した。

2018 年 10 月 31 日には、当該河川のさらに広範囲にわたって調査を行った結果、前述のとおり河川源流部の約 1 km の流程にわたりモンキマメゲンゴロウとニセモンキマメゲンゴロウの両種を同所的に確認した。この日の確認個体数は、モンキマメゲンゴロウ 115 個体に対しニセモンキマメゲンゴロウ 33 個体であり、このうち 4 個体を採集し標本とした。なお、ニセモンキマメゲンゴロウと同定した採集個体間の比較において、鞘翅亜基部から側縁に沿って伸びる黄色の帯状紋には、モンキマメゲンゴロウと同様に変異が認められた (第 4 図)。なお、冬期はさんだ 2019 年 6 月にも当地にて追加調査を行い、両種の生息を確認した。

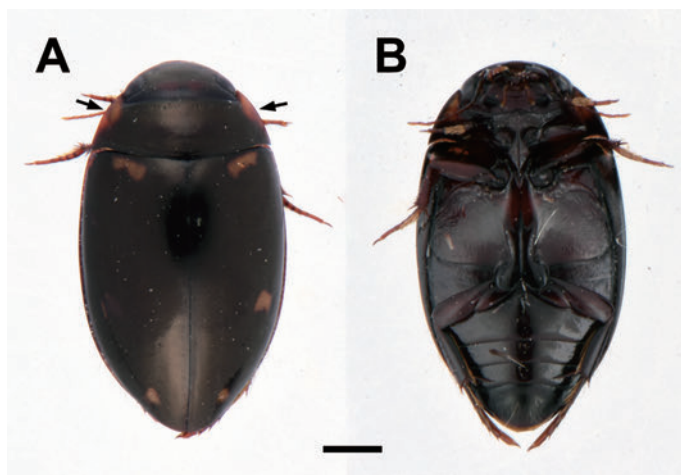
考 察：前述のとおり、本種は北海道で新種記載された後、青森県と福島県でも生息が確認されていたものである。本報は既報より南方における分布記録であり、三浦丘陵や多摩丘陵のみならず関東地方での広い分布範囲の解明が待たれる。なお、2017 年から 2018 年に三浦半島各地の河川において行ったモンキマメゲンゴロウ調査において、本報以外の場所

* 〒239-0801 神奈川県横須賀市馬堀海岸3-20-1

** 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

*** 日本大学生物資源科学部 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

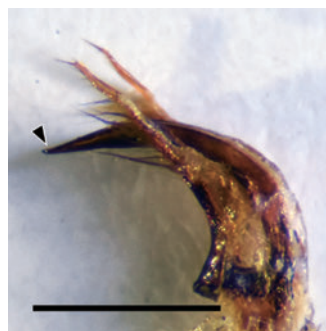
原稿受付 2019年10月30日。横須賀市博物館業績 第747号。



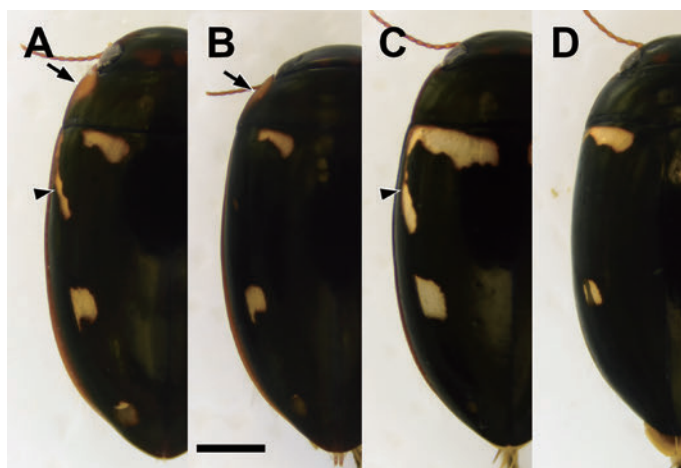
第1図 ニセモンキマメゲンゴロウ (YCM-I 32748). A: 背面, B: 腹面. 矢印: 前胸背前角の横紋. スケール: 1 mm.



第2図 ニセモンキマメゲンゴロウの前胸腹面拡大 (第1図と同個体). 矢じり: 前胸腹板突起. スケール: 1 mm.



第3図 ニセモンキマメゲンゴロウの雄交尾器. 矢じり: 中央片先端部. スケール: 1 mm.



第4図 ニセモンキマメゲンゴロウ (A, B) およびモンキマメゲンゴロウ (C, D) における紋の変異. 両種とも鞘翅亜基部から側縁に沿って伸びる帯状紋 (矢じり) が強く出るもの (A, C) から弱く消失してしまうもの (B, D) まで変異が認められる. 矢印: ニセモンキマメゲンゴロウの特徴である前胸背前角の横紋. スケール: 1 mm.



第5図 採集地の様子.

でニセモンキマメゲンゴロウを確認することはできなかった。

モンキマメゲンゴロウとニセモンキマメゲンゴロウの2種は、一見すると大きさや色合いが類似していること、さらに本報のように両種が同所的に生息しうることから、これまでモンキマメゲンゴロウの生息が確認されている河川においてニセモンキマメゲンゴロウの探索を行うことで、後者の既知の分布域に加えてより広い地域での生息状況を知ることができるであろう。また、筆者の一人、藤原による2018年の調査を通じて、これら2種が同一河川においても異なる環境選好性を持ち、ニセモンキマメゲンゴロウは水中で定位する深度には傾向がみられないものの、モンキマメゲンゴロウよりも水深のある場所を好む傾向が認められた。本報を含むこの調査

では、この仮説を十分に検証できなかったことから、今後は三浦半島内外の分布範囲の解明に加え、2種の環境選好性についても検証したい。

引用文献

- 北野 忠 2012. 青森県におけるニセモンキマメゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ, (5): 27-28.
- Okada R. 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra New Series*, 1(1): 31-38.
- 吉井重幸 2012. 福島県におけるニセモンキマメゲンゴロウ. ふくしまの虫, (30): 65-66.

